

樽前山

1 概況（平成 15 年 2 月）

今期間、顕著な地震増加などはありませんでした。1996 年以降地震活動が活発化しており、A 火口をはじめドーム周辺では熱的活動が活発な状態となっています。

2 噴煙活動の状況

A 火口、B 噴気孔群および E 火口の噴煙の高さは概ね 100m 以下で推移しました。いずれも勢いは弱く平常レベルですが、噴煙の状況から見て高温の状態は継続しているものと推定されます。なお、北海道立地質研究所が 19 日に測定した A 火口の温度は 560°C（赤外熱映像装置により約 5m の距離から放射率 1.0 で測定）と、引き続き高温を維持していることが確認されました。

3 地震活動の状況

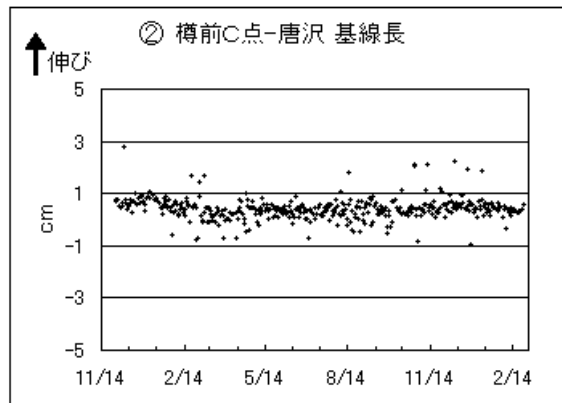
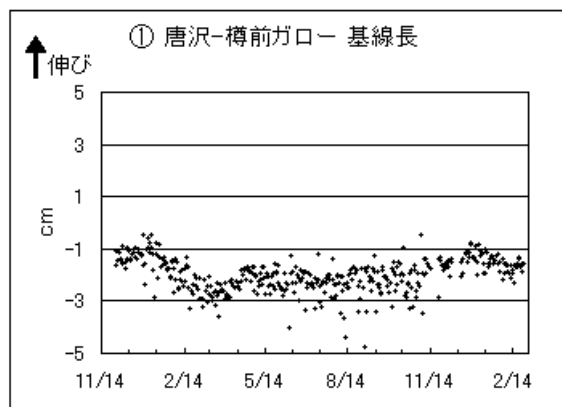
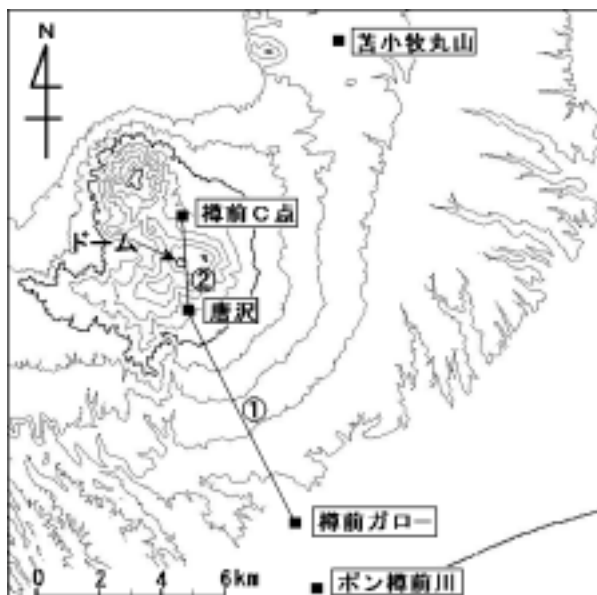
地震回数は 1 日あたり 0~8 回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが従来と変わらず山頂火口原の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されていません。

月別地震・微動回数（C 点）

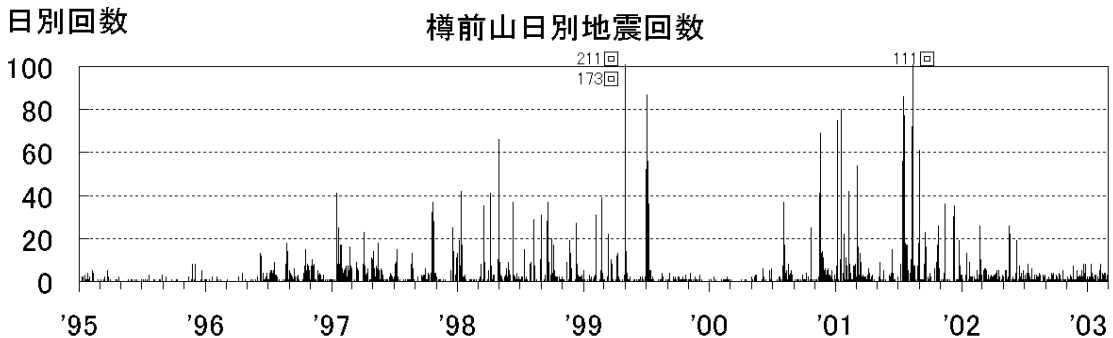
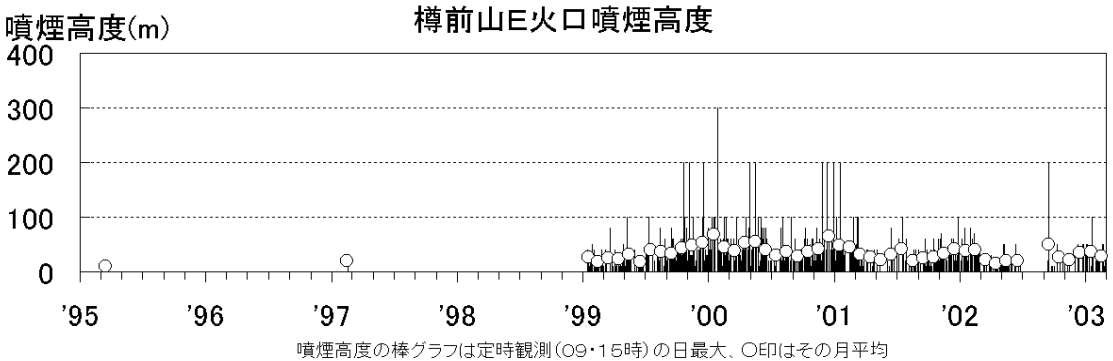
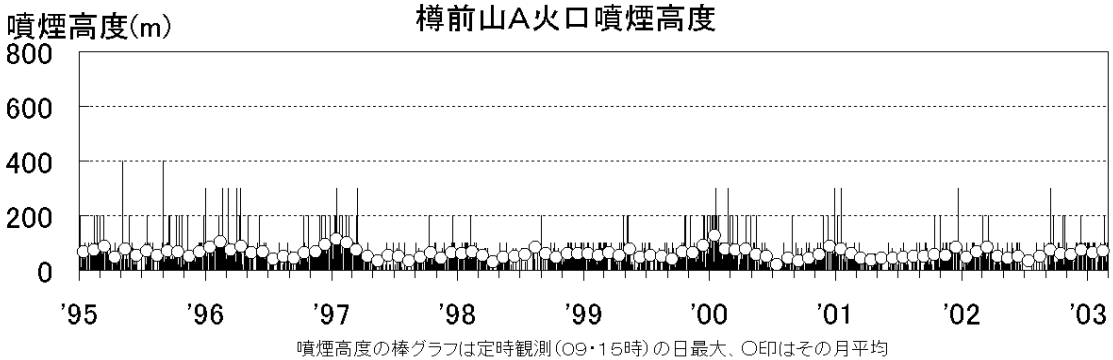
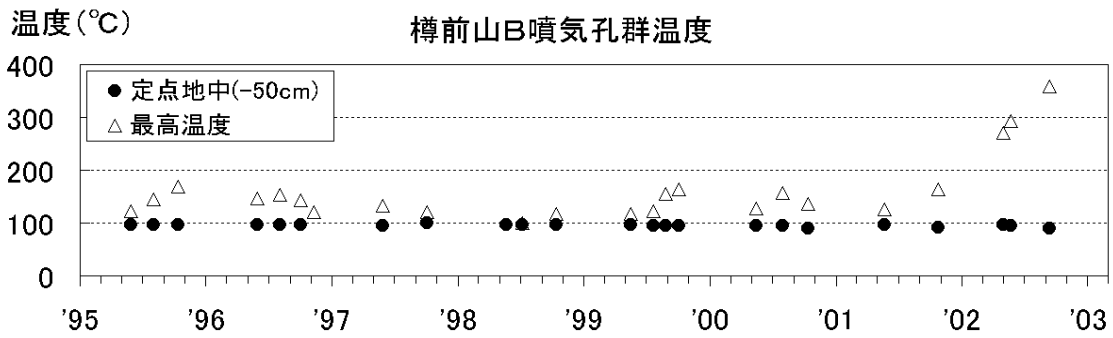
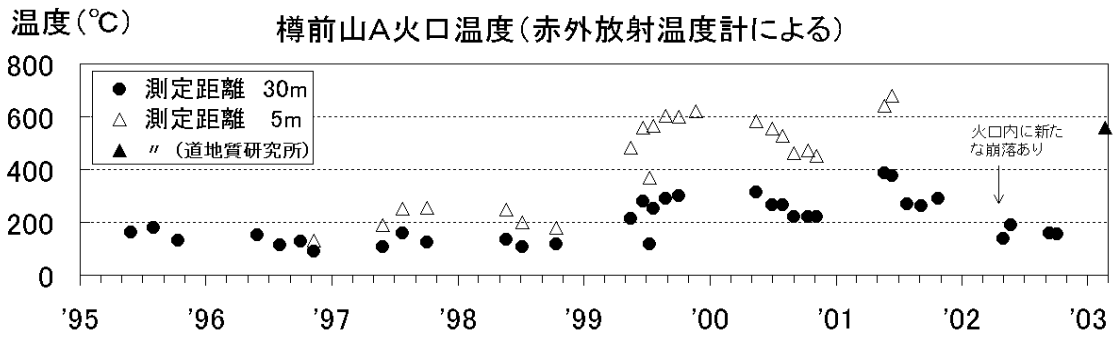
2002~2003 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	61	41	99	74	50	40	25	36	32	64	35	64
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

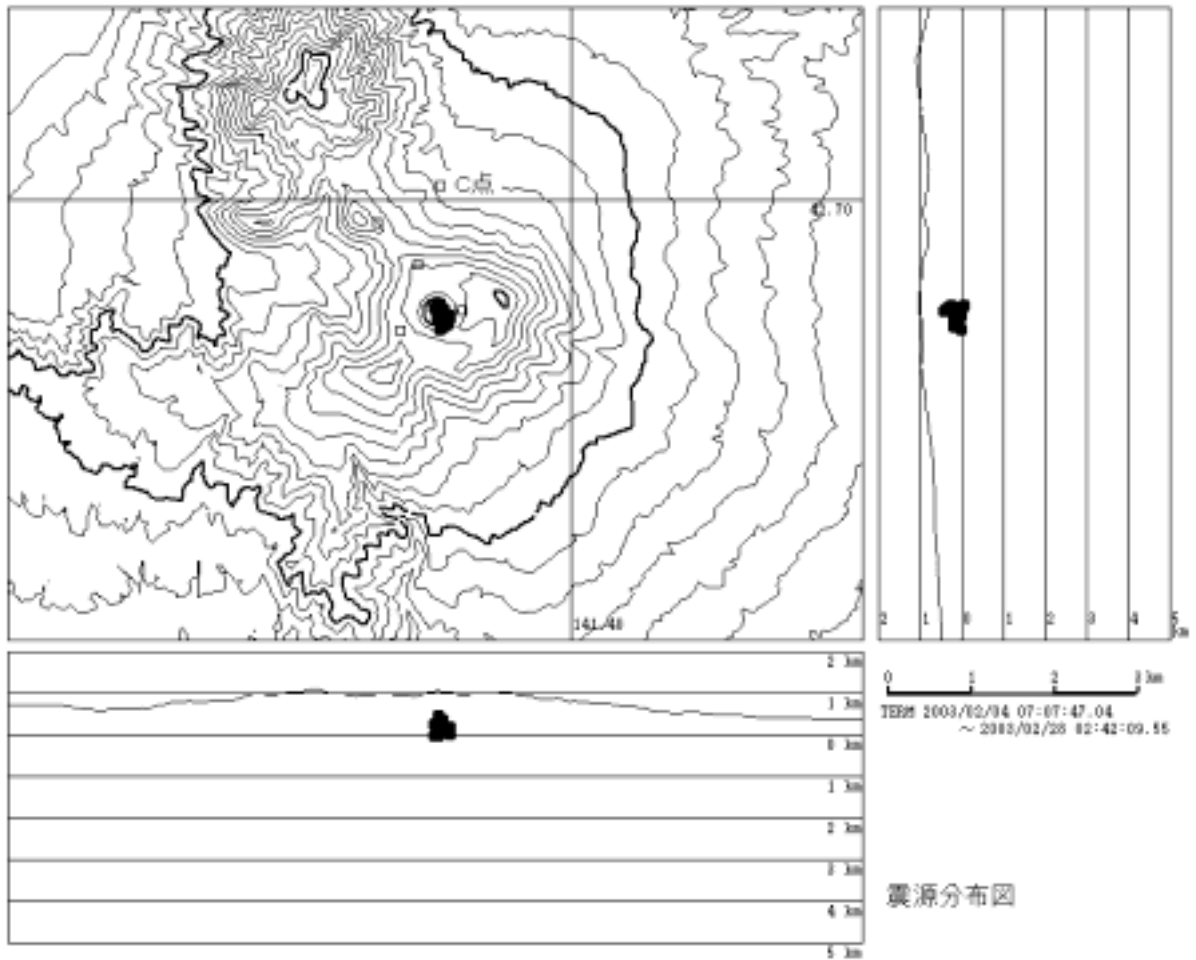
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。



樽前山基線長変化（2001 年 11 月 14 日
～2003 年 2 月 28 日）



樽前山火山活動経過図 (1995年1月1日~2003年2月28日)



樽前山震源分布図 (2003 年 2 月 1 日~2 月 28 日) □印は地震計